

令和元年度

事務事業評価表 A (平成30年度の実績評価)

記入年月日
平成 31 年 4 月 12 日

Table with columns for project name (橋梁長寿命化修繕事業), policy system position (政策体系上の位置付け), financial position (財務会計上の位置付け), and budget items (予算科目).

(Do) 1. 事務事業の現状把握 (その1)

Table with 2 columns: ①事務事業の概要 (事務事業の全体像) and ②担当者が行う業務の内容・やり方・手順. Includes text about bridge maintenance and safety.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with columns for ①手段 (担当者の活動内容), ②対象 (誰、何を対象にしているのか), ③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか), and various indicators (活動指標, 対象指標, 成果指標) with values for 29, 30, 01, 02, 03 years.

(3) 投入量 (事業費) の推移

Table showing input volume (事業費) with columns for 29年度 (実績), 30年度 (実績), 01年度 (計画), and 期間限定総投入量. Includes sub-categories like 国庫支出金, 県支出金, etc.

Table showing 30年度事業費実績 (千円) and 01年度事業費 予算 (千円) with specific line items like 13 委託料, 15 工事請負費.

(4) 当該年度の実施内容

Table with 4 columns for implementation content: 01年度, 02年度, 03年度, and a summary column. Includes a note about reporting content and a list of main activities.

事務事業名	橋梁長寿命化修繕事業	事務事業No.	50302000374	所属課	建設課
-------	------------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 全国的に橋梁は同時期に建設された物が多い。今後それらの橋梁が同時に更新時期を迎え、その時に多くの架け替え費用がかかるため、市の財政を大きく圧迫することが予想される。しかし橋梁について定期的に点検を実施し、修繕計画に基づき予防修繕を行うことによってこの費用を分散し、ライフサイクルコストを低減させることが可能となる。さらに、橋梁の崩落等による事故を未然に防ぐことによって道路ネットワークの安全性・信頼性の向上へとつながる。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか? 道路施設の老朽化による問題の解決のために平成26年度より茨城県道路メンテナンス会議が開かれ、橋梁及び道路構造物の維持管理の重要性について議論されている。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容 現状維持

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) 結びついている 良好な管理の下に未永く利用するために、安全かつ円滑な交通の確保ができる。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) 妥当である 市が管理する橋梁であり、管理者である市が行うことは妥当である。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) 向上余地がない 定期点検の結果に基づき必要なものを修繕しているため、成果は一定である。
有効性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) 影響有 橋梁の維持修繕が困難となる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) → 具体的な手段、事務事業名 余地がない 橋梁の維持・修繕であり、類似事業がない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) 削減余地がない 点検結果を基に修繕の必要性を精査したうえでの補修対応により、削減は出来ない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) 公正・公平である 点検結果及び計画に基づく修繕事業のため公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ②有効性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ③効率性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 ■ 適切 □ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 橋梁補修工事の施工範囲は、点検結果を基に早期措置が必要な箇所及び予防保全として措置が望ましいものも含め対応している。本来予防保全を目的としているが、多数の橋梁を望ましい状態まで補修するには、国庫補助金、市予算共にきびしい状況。橋梁が存在する限り永続する事業であり、真に補修が必要なものを見極めたうえでの発注が必要である。
(3) 今後の事業の方向性 □ 終了 ■ 継続 □ 改革改善を行う → (複数回答可) □ 廃止 □ 休止 □ 現状維持	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) コスト削減 維持 増加 成果維持低下
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 ① コスト削減優先度評価結果 -

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 A A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合) 確認欄
--	---